

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

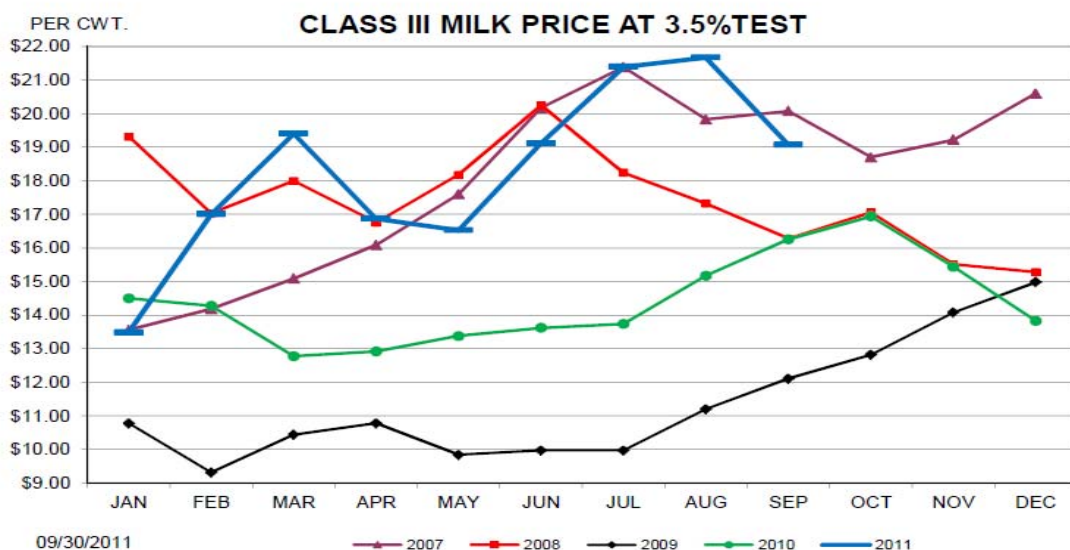
北米コンテナ船情勢

WTSA (Westbound Transpacific Stabilization Agreement) 加盟の船会社から、11月1日よりGRI (General Rate Increase: 基礎レート) \$100値上げの発表がされました。PSWでは値上げ幅が満額まで至らない船社・航路もあるようですが、PNWでは船腹スペースと空コンテナのタイト感が、引続き顕著となっているため、ほぼ全ての船社で値上げが実施されている模様です。秋以降に各船社とも減船やサービスの改変があり、船腹スペースがさらに減っているため、船積み遅延が目立ち始めています。例年、年末に向けてデリバリーが混乱するため、今後の動向には注意が必要です。

また、10月1日から11月1日に延期が発表されていたカナダ航路のGRI \$200値上げは、予定通り実施されています。

米国の乳価動向

3ヶ月連続の値上げで推移してきた米国の乳価（下記グラフ参照：クラスⅢチーズ向け）は、9月に入り値下げに転じています。米国内の景気に影響されて、今後も弱含みで推移することが予想されています。飼料コストも高いなかで、米国内酪農家は再び厳しい経営を強いられることになりそうです。



ビートパルプ

<米国産>

11年産ビート大根は、冷涼な気候が続いていたため、作付けの進捗が遅れました。作付け後も天候が優れなかったため、10年産よりも20日ほど遅れて収穫が開始しています。その結果、作付面積は前年比で4-5%増加したものの、生産量は前年比で10%以上減少すると見込まれています。また、10年産の繰越在庫がない状況下で11年産の収穫が遅れていることから、米国産ビートパルプは年末に向けて非常にタイトとなることが予想されています。

アルファルファ

<ワシントン産>

コロンビアベースンでは、11年産1番刈も10年産と同様に、雨当たり被害が多く発生する結果となってしまいました。続く2番刈でも雨当たり被害が多数発生し、雨当たり被害を免れたノーレイン品やプレミアム品は、限定的となってしまいました。3番刈については、茎が細めの傾向ながら品質・分析値は悪くなさそうで、1-2番刈よりも改善しています。しかしながら、大半がBIGバールでの収穫となっているため、3タイのプレミアム品は限定的な生産量となっている模様です。2番刈と3番刈は、ともにプレミアム品も色あせ（ブリーチ）が目立つスタックが多く発生しています。

産地では4番刈の収穫がほぼ終了しています。1-2番刈の収穫の遅れにより、収穫がほとんどできないと懸念されてきましたが、一部の早い圃場では収穫ができています。雨当たり被害は免れていますが、単収は少ないため、生産量は少ない見込みです。



コロンビアベースン アルファルファ検品スタック

(左) 2番刈 (ブリーチ多いスタック) 11/3撮影 (右) 4番刈 (茎が細いスタック) 11/1撮影

<オレゴン産>

クリスマスバレーでは、例年よりも3週間ほど進捗が遅れて、7月上旬から1番刈の収穫が始まりました。生育が遅かったために、単収が例年の6-7割程度となっています。続く2番刈の収穫は8月中旬から始まりましたが、8月にもかかわらず、朝方に氷点下まで冷え込む日もあったため、単収が1番刈と同様に少なかった模様です。産地では3番刈の収穫が終了しています。

クラマスフォールズでも、3番刈の収穫が終了しています。クリスマスバレーと同様に、1番刈の収穫が遅れたことにより、2番刈以降の単収が少ないと予想されています。

両産地とも、1番刈の収穫が遅れたことから、例年通り3番刈まで収穫をしようと生産農家が2番刈を早めに刈取ったため、2番刈は茎が硬すぎず分析値の高いプレミアム品の発生が多い傾向にあります。



(左) クリスマスバレー アルファルファ2番刈検品スタック 11/5撮影

(右) クラマスフォールズ アルファルファ2番刈検品スタック 11/6撮影

<ネバタ産>

ネバタ州では、1番刈、2番刈ともに冷涼な気候が続いたため、単収は少ない模様です。産地では3番刈の収穫が終了しました。産地でのアルファルファのトータルの生産量は、大きく減少すると予想されます。

この地域では国内向けの需要が強く、さらに大手サプライヤーも中東・中国向けに積極的に買付けをしているため、産地価格は高値で推移しています。

<カリフォルニア産>

インペリアルバレーでは、8番刈まで収穫が終了しました。品質が落ちてきてくるこの時期の「サマーヘイ」と呼ばれるアルファルファは、例年では比較的安価になるはずですが、依然として国内向けや輸出向けからの需要が強いため、産地価格は春先に出荷されていた1-2番刈よりも高値で推移しています。

<コタ産>

産地では4番刈の収穫が終了しています。10月上旬から4番刈の収穫が始まりましたが、一部で雨当たり被害を受けた模様です。生産量も少ない見込みから、プレミアム品の発生は非常に少ないことが予想されています。

11年産アルファルファは、各産地とも旺盛な引合いを背景に、産地価格は1番刈以降も日々高くなり、現在も堅調に推移しています。穀物や燃料も同時に高騰した08年産と変わらないか、それ以上に高い水準となっているのが現状です。産地では収穫もほぼ終了し、特に輸出向けの全ての需要を満たすだけの供給量もないため、価格が大きく軟化する可能性はシーズン終了までないと見込まれています。

<12年産予測>

現在、ワシントン州コロンビアベースンを中心に、アルファルファ種子の引合いが強いため、アルファルファへの転作が多いと一部で予想されています。一方で、トウモロコシや小麦などの穀類の相場価格が一時期よりも軟調に推移していることから、今後はアルファルファから穀類への転作は少ないことも予想されています。したがって、12年産アルファルファの作付面積は11年産よりも増える可能性があるかと、産地では考えられています。

また前述の通り、米国では乳価が弱含みで推移すると予想されています。11年産で強かった米国内酪農家からのアルファルファの需要も12年産では軟化する可能性もあります。UAE・中国向けの需要が強い下支えとなっているため、すぐに“イコール価格も軟化する”、ということにはなり得ない市場に近年はなっていますが、11年産の価格高騰の一番の要因と言われている米国内向け需要が軟化すれば、輸出向けにとっては良い環境となりそうです。

ただし、12年産を予測するには時期尚早なので、今後もアルファルファの作付け動向や、米国の酪農情勢・乳価動向について、引続き注意が必要です。

チモシー

<米国産>

1番刈の品質は全般的に良好で、10年産よりもプレミアム品が多く発生しています。続く2番刈の収穫も終了しています。2番刈の品質は、徐々に昼夜の寒暖の差が大きくなってきているため、色あせ（ブリーチ）品の発生もあるようですが、プレミアム品も発生しており、総じて11年産の作柄は良い結果となっています。

産地では10月上旬中旬から屋内くん蒸が開始され、費用も発生しています。価格が高くなることから、例年では日本向けの荷動きが落ち着き始めますが、豪州産11年産オーツハイの状況から、代替として米国産チモシーの需要が増える可能性も出てきています。今後の動向には注意が必要です。

<カナダ産>

レスブリッジ（南アルバータ）、ドライランド（中央アルバータ）ともに、収穫が終了しています。今年はプレミアム品の発生が多く、ここ数年で最良の年となったようです。両産地とも、11年産は作柄には恵まれたものの、生産コスト（肥料・燃料）の価格上昇から、産地価格は米国産よりも高値でスタートしています。日本向けの船積みは少し落ち着いてはいますが、中東からも安定した需要がある模様で、産地価格は今後も強含みで推移すると予想されます。

スーダングラス

<インペリアルバレー産>

産地では収穫が終了しています。終盤に収穫された早播きの2番刈と遅播きは、湿度が少し高くなってきたため、茶葉が散見されるようです。

11年産のハイグレード品の産地価格は、日本からの引合いが強かったこともあり、想定以上の高値となっています。一方で、11年産は早播きの2番刈と遅播きが多く、日本からの引合いは強くない中間以下のグレードを中心に多く発生するため、中間グレード・ローグレード品の価格は軟調に推移する可能性もあると考えられていたましたが、米国内の肥育農家や酪農家からの引合いが強いため、未だに軟化する気配がない状況となっています。今後は、豪州産11年産オーツハイの輸出可能なローグレード品がどれほどの数量・価格で出てくるかで、スーダングラスの中間グレード・ローグレード品の需給が変化する可能性もあります。動向には注意が必要です。

<北カリフォルニア産>

例年よりも生育が3週間ほど遅かったため、産地では10月下旬にようやく収穫が終了しました。穀類や綿実などに転作した生産農家も多く、11年産の作付面積は30%以上減少している模様です。そのため産地価格は高値で推移しています。

買付けシーズンは終盤戦を迎えています。豪州産11年産オーツハイの状況から、代替としてハイグレード品の需要が増える可能性も出てきています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

産地では5番刈の収穫がほぼ終了しています。いまだに収穫をしている圃場もあるようですが、夜間は気温が10℃を下回るため、単収はあまり多く見込めません。

韓国向けは、年内の乾牧草の輸入割当て枠がほぼ無くなってきたことから引合いが徐々に弱まり、ストロー類に需要が移行する可能性も出てくると予想されていますが、現時点ではまだ引合いが強いままの模様です。今後は、豪州産11年産オーツヘイの輸出可能なローグレード品がどれほどの数量・価格で出てくるかで、クレイングラスの韓国向け需給が変化する可能性もあります。動向には注意が必要です。

バミューダ

産地ではバミューダ種子の相場価格が堅調に推移しています。以前まではほとんどが米国向け需要で、住宅やゴルフ場向けに使用されるため、米国内の景気に影響されて弱含みで推移していましたが、現在では中国への輸出が順調に増えている模様です。そのため、UAEや日本から強い引合いがあるにもかかわらず、種子を取る前のバミューダヘイの供給量が減少しているため、産地価格は高値で推移しています。

またバミューダストローについても、米国内酪農家から強い引合いがあるため、輸出向け供給量は減少し、産地価格は高値で推移しています。

ストロー類

フェスキューは、7月中旬に降った大雨の影響により、雨当たり被害が多く発生しています。8月中旬から収穫が開始したライグラス（ペレニアル種）については、雨当たり被害を免れた模様です。11年産のストロー類は、良品の確保が難しいため、サプライヤーによっては雨当たり品も、ノーレイン品よりも多少安い価格で船積みを開始している模様です。

豪州産オーツヘイ

<西豪州>

収穫が本格化する10月上旬に雨が続き、さらに10月中下旬にも強めの雨が続いたため、雨当たり被害が大量に発生しており、深刻な事態となっています。雨当たりを免れたノーレイン品はごくわずかで、その中でも分析値の良いハイグレード品については、かなり限定的な数量となっています。産地では刈取りが全て終了していますが、ベーリングは40-50%の進捗で、残りの圃場ではオーツヘイを十分に乾燥することができないため、放置されたままとなっている模様です。輸出向けに適さないほど品質が劣化しているため、そのまま圃場で肥料としてすき込まれるか、焼却されるオーツヘイが多い見込みです。昨年と同様（ヴィクトリア州）と同様のような状況となっていますが、もともと降雨量が少ない西豪州では珍しい作柄の年となっ

いました。

旱魃の影響で生産量が減少する一方で品質は雨にも当たらずハイグレード品ばかりだった10年産とは、全く違った状況となっています。西豪州から約40万トン輸出される見込みだった11年産の輸出向け数量は、半分以下となることが懸念されています。産地価格については、数少ないノーレイン品に需要が集中していることから、軟化することなく堅調に推移しています。限定的なハイグレード品については、さらに高騰することが予想されます。



西豪州北部オーツハイ圃場（雨あたり品） 10/17撮影

<南豪州>

産地では刈取りが80-90%、ベアリングが50-60%の進捗となっています。南豪州でも10月上旬から降雨が続いたため、雨当たり被害が多く発生しています。雨当たりを免れたノーレイン品は少なく、その中でもハイグレード品については、限定的な数量となっている模様です。作付面積が前年比20-30%減少したことに加えて、冷涼な気候の影響で単収が減少していることから、南豪州からの輸出向け数量も減少することが見込まれています。



南豪州オーツハイ圃場（雨あたり品） 10/13撮影

<東豪州（ヴィクトリア州）>

産地では刈取りが80%、ベーリングが30%の進捗となっています。一部で雨当たり被害が発生している模様です。西豪州、南豪州よりも収穫が遅く、両産地の状況から東豪州（ヴィクトリア州）産への期待も高まりつつありますが、もともと雨がよく降る地域なので、輸出向けの全需要を補うだけのハイグレード品が発生することは難しいと見込まれています。天気予報によると、11月上中旬に雨が降ることも予想されています。



ヴィクトリア州オーツハイ圃場（刈取中） 10/15撮影

11年産オーツハイは、どの産地でも雨当たり被害が発生しています。輸出向けオーツハイは、西25-40万トン、南25-30万トン、東5-15万トンと、例年の実績から考えられていますが、4-5割を占める西豪州での酷い雨当たり被害は、大きなインパクトがあります。ノーレイン品の価格のさらなる高騰も考えられることから、今後の動向には注意が必要です。

以 上